

令和七年度全国学力・学習状況調査 結果概要

摂津市立第一中学校

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

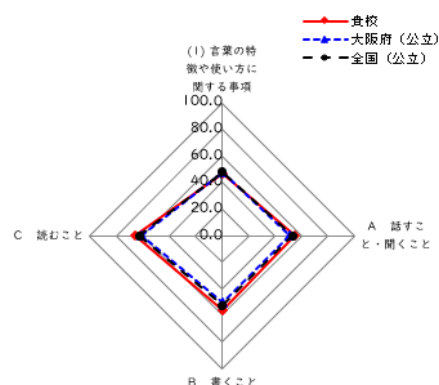
2. 実施日 令和7年4月17日(木)

3. 調査対象 中学校第3学年の生徒

4. 調査結果概要

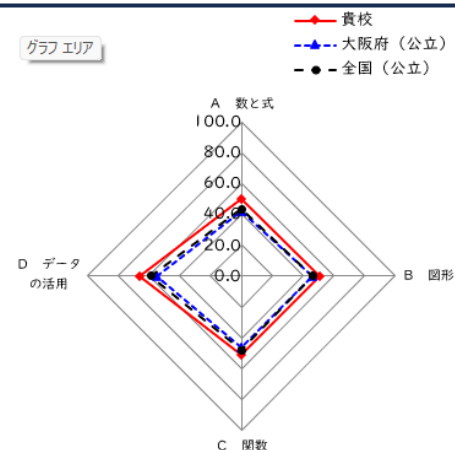
【国語】 本校の平均正答率は全国平均及び府平均より高い。

本校の平均正答率は、府平均や全国平均を上回った。特に「思考・判断・表現」の観点での正答率が高く、文章を読み取って考えをまとめたり、相手に伝わるように表現したりする力が育っている。分野別では「書くこと」「話すこと・聞くこと」で優位性が見られ、発表や手紙文の修正など、目的や相手意識を踏まえた表現力が身についていることが分かる。一方で、「語句の使い方」や「文の構成を整える」問題ではやや課題が残る、文脈に応じた言葉の選択や文章の構造的な理解をさらに深める必要がある。また、情報収集から整理・分析・まとめへ至る力にも課題がやや残り、複数資料の提示に混乱しやすいと考えられる。全体としては、自らの考えを根拠をもって説明し、表現する力が着実に育成されている。



【数学】 本校の平均正答率は全国平均及び府平均より高い。

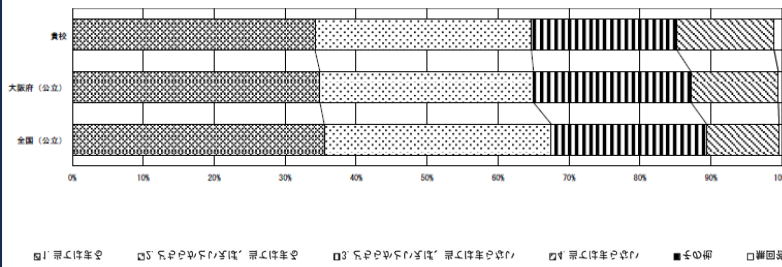
本校の数学分野は、全体平均正答率 54.0%と府・全国平均を上回り、特にデータの活用(60.3%)で顕著な成果が見られた。一方で、「数と式」や「図形」における式の意味理解・反例提示・証明の精度などには課題が残る。グラフ読解や実生活に根ざした問題への対応力は高く、思考・判断・表現の力が確実に育っていると考えられる。今後は、計算過程や説明文を言語化する活動を通して、「わかる」から「正しく説明できる」への転換を全員に広げることが重要だと考えている。特に探究的課題や生活と関連づけた問題を通して、数学の有用性を実感できる授業づくりを進めていきたい。



【理科】 本校の平均正答率は全国平均及び府平均よりやや低い。

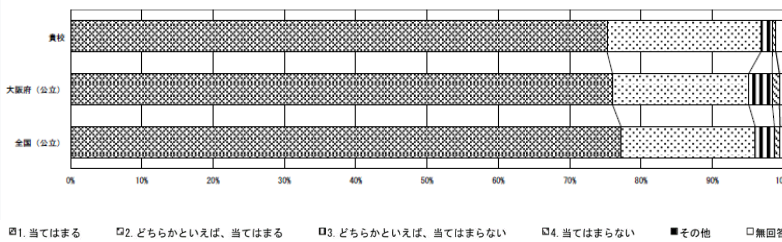
本校の平均正答率は全国・府平均をやや下回ったが、領域別に見ると「エネルギー」や「粒子」分野では一定の成果が見られた。一方、「生命」や「地球」分野では、観察・実験の結果を根拠に説明したり、仮説を立てて検証したりする力に課題が残る。特に、科学的思考力を問う記述問題で正答率が低く、知識を活用して考察する力の不足がうかがえる。今後は、実験・観察を中心とした体験的な学習をさらに充実させ、仮説を立てて検証する活動を通して、理科的思考を深める授業を推進していく必要がある。生徒が「理科は生活に役立つ」と実感できる授業づくりが、関心と学力の両面を高める鍵となると考えている。

(7) 将来の夢や目標を持っていますか



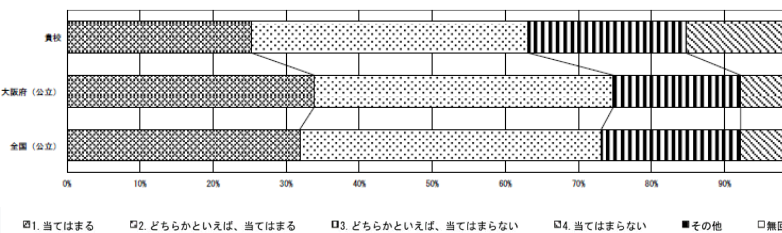
質問(7)では、多くの生徒が自分の将来に関心を持ち、夢や目標を前向きに描き始めていると捉えている。総合的な学習の時間での取組を通して、社会のさまざまな職業や課題に触れ、自分の可能性を考える機会が増えていることが成果として表れている。今後は、体験的な学習をさらに充実させ、「どんな大人になりたいか」「そのためにどんな努力が必要か」を考える活動を通して、生徒一人ひとりの夢の実現を後押ししていきたい。

(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



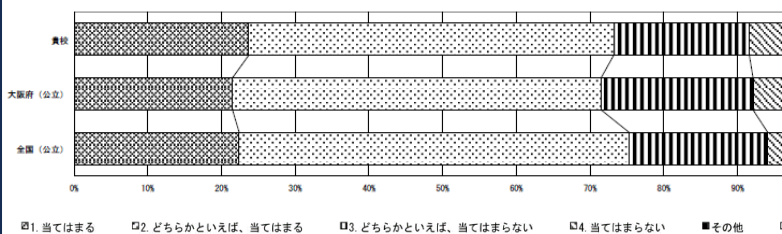
本校の肯定的回答が約96%と非常に高く、府・全国平均を上回る結果となった。このことから、生徒一人ひとりに「いじめは許されない」という意識がしっかりと根づいていることが分かる。これまでの学校全体での継続的な取組や、道徳・学級活動での話し合いの成果が表れているといえる。今後も、生徒が互いを認め合い、安心して過ごせる学級づくりを進めながら、この意識を確実に定着させていくことが大切である

(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



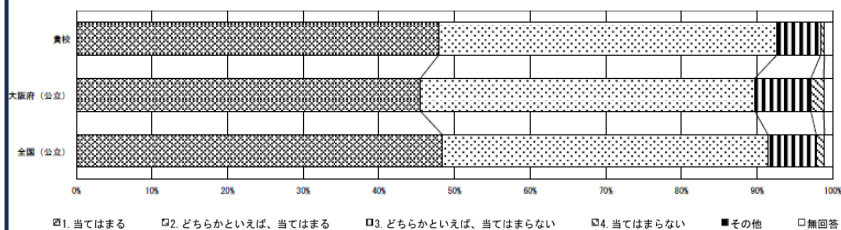
本校の肯定的回答は約66%で、まだ伸びしろがあるものの、生徒の多くが教師との信頼関係を感じていることが分かる。一方で、より多くの生徒が安心して相談できるようにするためには、日常の中での声かけや「聞こうとする姿勢」を意識していくことが大切である。生徒の小さな変化や思いに気づき、対話を重ねることで、相談しやすい雰囲気づくりを進めている。今後も生徒の安心感を広げる取組を継続していきたい。

(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



質問(27)では前向きな回答も見られ、生徒が地域や社会に目を向け始めていることが分かる。学校行事や総合的な学習での地域の課題を扱う機会を通し、「自分にできること」を考える姿勢が育っていると考えられる。今後は、学びを地域貢献へと結びつけ、行動に移す体験的な学習をさらに充実させていきたいと考えている。

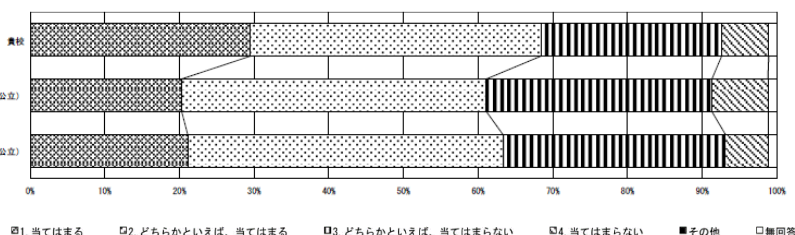
(29-2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか



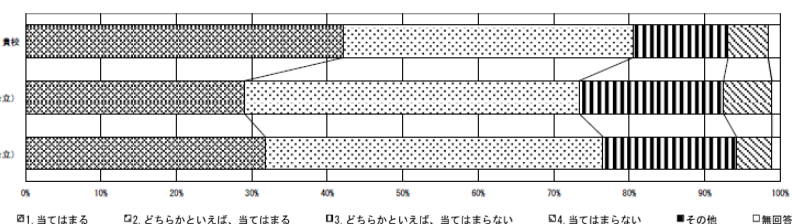
質問(29-2~4)では、授業外での学習時間自体は全国平均よりやや少ない傾向にある一方で、ICT機器を活用した学習への意識と実践が定着していることが分かる。

特に「ICT 機器を使って文章を作成できる」「情報を収集・整理できる」「スライドを使って発表できる」といった項目では、全国平均を上回る肯定的回答が見られた。これは、日常的にタブレット端末を活用した授業を行ってきた成果であり、生徒が情報を自ら整理し、表現する力が着実に育っていることを示している。今後は、ICT機器の活用を単なるツール使用にとどめず、課題解決や共同学習など思考の深化につながる学びへと発展させることで、「自ら考え、伝え、活用する力」をさらに高めていきたいと考えている。

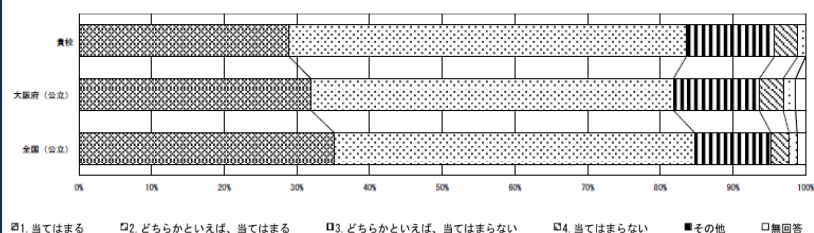
(29-3) あなたは自分がPC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか



(29-4) あなたは自分がPC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか

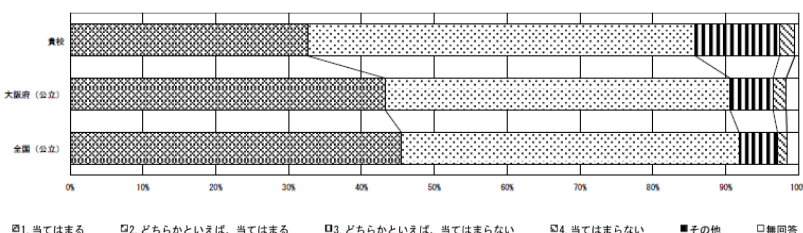


(35) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



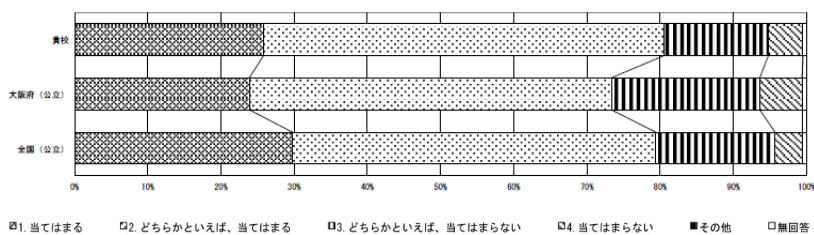
「どちらかといえばそう思う」を含めた肯定的回答は高く、多くの生徒が協力して学ぼうとする姿勢を持っていることが分かる。昨年度の実践である「自分の考えをもとに判断し、表現する力の育成」により、意見交換の場は定着してきたが、意見を深め合う機会や役割分担を意識した協働活動の充実が今後の課題である。今後は、生徒が互いの考えを尊重しながら共に課題を解決する経験を重ね、より主体的で協働的な学びを育んでいきたいと考えている。

(39) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか



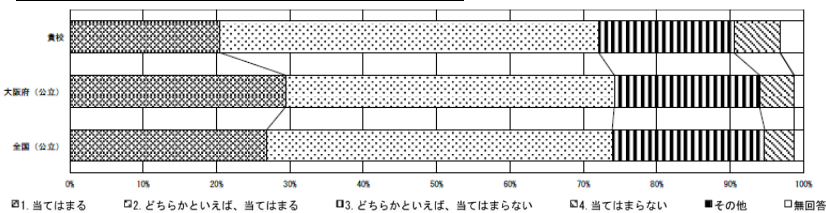
多くの生徒が学びを次につなげようとする意識をもっていることが分かる。昨年度取り組んだ「自分の考えをもとに判断し、表現する力の育成」により、学んだことを自分の言葉で整理する姿勢は定着しつつある。今後は、教科間のつながりや地域・実生活と関連づけた学習活動をさらに充実させ、学びの活用実感を高め、探究的な学びを深化させたい。

(40) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



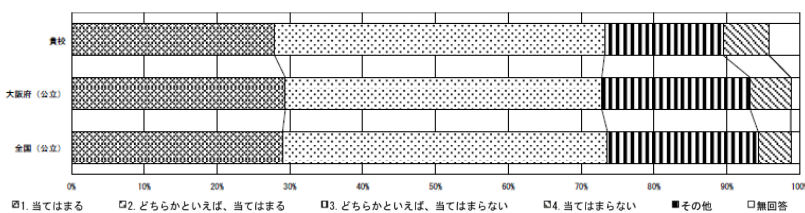
質問(40)では、肯定的回答が全国平均を上回り、生徒の主体的・探究的な学びの姿勢が定着している。昨年度の総合的な学習の時間でのプログラムを通して、自ら課題を設定し、仲間と協働しながら発表までやり遂げる経験が増えたことが成果につながっている。自分の考えを整理して言葉にする力や、他者の意見を踏まえて考えを深める姿勢も育っており、総合的な学習が学びの自立を支える重要な機会となっている。

(50) 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか

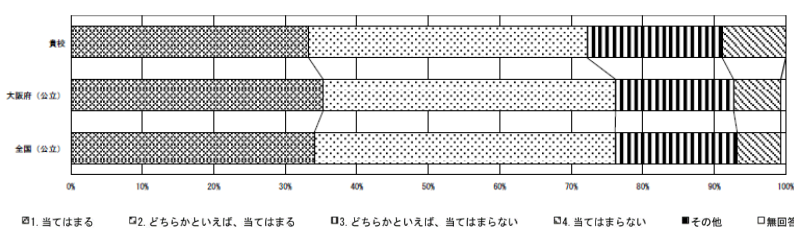


質問(50)(51)の結果において、生徒の着実な成長が見られた。どちらの項目も6割前後の生徒が肯定的に回答しており、文章の構造を意識して読み、自分の考えを整理しながら表現しようとする姿勢が育っている。特に、書いた文章を見直す意識が高まりつつある点は、表現力向上に向けた大きな前進といえる。今後は、短時間の振り返り活動や相互評価を取り入れ、さらに推敲力を高めていくことで、読みと書きを往還させた深い学びにつなげていきたい。これらの結果は、生徒の「考える国語」「伝える国語」が確実に育ちつつあることを示している。

(51) 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか

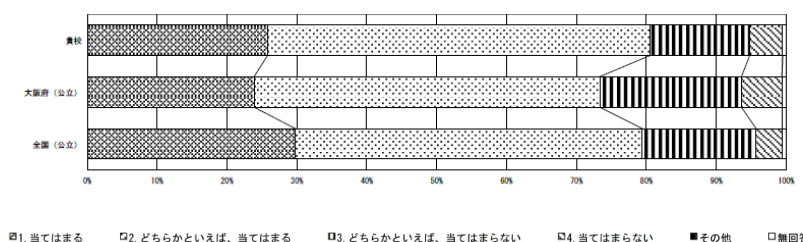


(57) 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか



設問(57)では全国平均をわずかに下回ったものの、多くの生徒が肯定的に回答しており、課題に対して前向きに粘り強く取り組もうとする姿勢が育っていると考えられる。難問に対峙した時、困難を感じながらも考え続けようとする姿勢は本校の強みである。今後は、多様な考え方や解法を共有する授業を通して成功体験を増やし、自信をもって問題解決に向かう力をさらに育てていきたい。

(63) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



質問(63)では多くの生徒が肯定的に回答しており、理科の学びを生活や将来と結びつけて考えられていることが分かる。観察や実験を通して得た知識を身の回りの現象の理解に生かそうとする姿勢が見られ、本校の理科教育の成果といえる。今後は、学んだ内容をより具体的に社会や職業と関連づけることで、理科の有用性を一層実感できるようにしたい。観察や実験の機会を増やし、生徒が主体的かつ積極的に興味を持って取り組める授業および環境を整え、注力していく。